

和食文化に、新しい

可能性を開く。

ふだんから和食文化に触れる機会が少なくなっている若い人たちに、もっと興味や関心を持ってもらうにはどんな方法があるでしょう。海外の事例では、歌やダンスなど遊びの要素を盛り込むことで、楽しみながら食文化を継承していく取り組みも見られます。

そこで本検討会では、若年層にも人気のあるスマホゲームと連携し、日本全国の郷土料理をテーマとしたオリジナルコンテンツを開発。ゲームに参加する前と後で、和食文化への意識がどのように変化するかを検証しました。

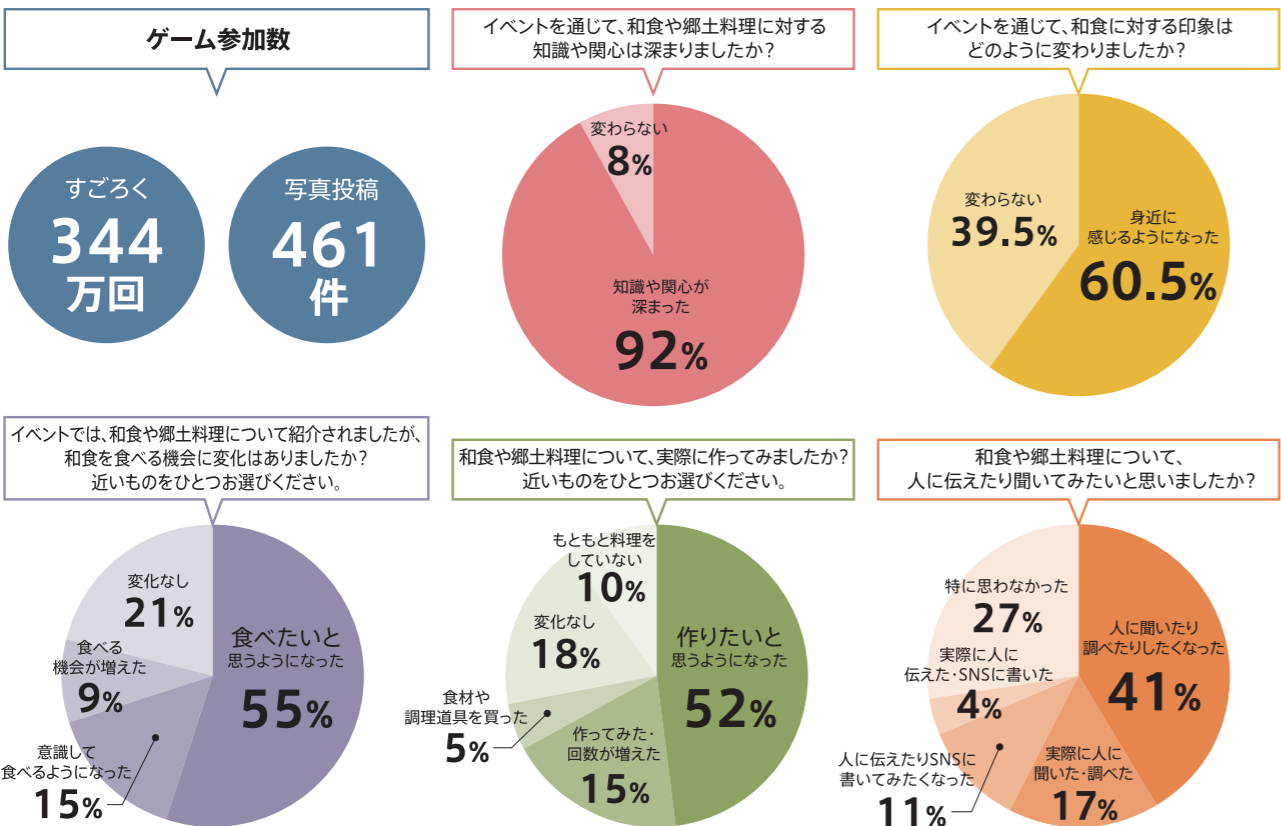


参加者へのアンケートによると、和

食や郷土料理について「知識や関心が深まった」と答えた人は92%。「身近に感じるようになった」「食べたいと思うようになった」という人も半数以上いました。一方、「作ってみた」「食べる機会が増えた」という確実なアクションにつながった人は10%前後にとどまりました。ゲームを通して生まれた和食文化への興味・関心を実際の食生活に結び付けていくには、和食の食材が購入できるサイトとの連携や実際にゲーム内に出てきた郷土料理を食べられるお店の紹介などの様々な仕組みづくりが必要なのかもしれません。

和食文化を大切に思い、継承活動を行っている方々にとって、若い人たちへのアプローチは共通の課題。たくさんさんの入り口を作り、身近に感じてもらえるような仕組みを作り、まずは多くの人に興味を持ってもらう取り組みを広げていくことが、和食文化継承への一歩になるのではないでしょうか。

〈ごちぼん参加者アンケート〉和食や郷土料理についての、行動や意識の変化



※ごちぼんユーザーアンケートより(n=3,000)

第一弾 和食特別イベント

開催期間: 2016年1月6日~1月21日

日本全国をすくろくでまわりながら47都道府県の郷土料理のレシピを集めるゲーム。遊びながら、その土地に伝わる和食文化に触れることができます。



第二弾 みんなの和食投稿フォトコンテスト

開催期間: 2016年1月21日~1月26日

実際にゲームに登場した郷土料理や身近な和食を自宅で作り、写真を投稿してもらう企画。日本全国からたくさんの方々が応募があり、ユーザー間の交流も活発に。



ヒットから見る 食情報発信のキーワード

クックパッド株式会社 編集長 草深 由有子



「おにぎらず」が大ヒット。その要因のひとつは、お米にあります。老若男女、日本人全員に食べなじみがあるため取り入れやすく、多様な食材と相性も良いという、お米は和食文化の懐の深さが功を奏した例でしょう。

大ヒットした「おにぎらず」
「ひじきの煮物で和風おにぎらず②」(投稿: やちゅびちゅ)

また昨年は、握らないおにぎり「おにぎらず」が大ヒット。その要因のひとつは、お米にあります。老若男女、日本人全員に食べなじみがあるため取り入れやすく、多様な食材と相性も良いという、お米は和食文化の懐の深さが功を奏した例でしょう。

忙しい現代。今は多くの人が手軽さと時短、でもおしゃれであることを料理に求めるようになっており、和食にも新たなニーズが生まれてきていると思われまます。ですから、「おにぎらず」のように、和食の価値や魅力を再編成し上手に発信することで、和食文化をもっと楽しむ機会を増やしていきたいと考えています。その際のキーワードは「ネーミングの良さ」「ビジュアルの良さ」「アレンジのしやすさ」。これを手がかりにすれば、和食は難しいというイメージも変わっていくでしょう。